

クラブライフの提案

「ホテルアソシア高山リゾートのリゾートライフ」

目次

【1】変革経て人気の観光都市に

高山はヨーロッパ客に人気 2回のイノベーションを経た高山の町並み

【2】小京都風行事が並ぶ余裕の素は？

大正時代の高山「小京都」論 行事と食べ物 余裕はどこから？

【3】交通事情

江戸・高山はざっと10-11日 鉄道の開通は1934年10月

【4】雛にまれな料理

宗和流懐石料理の洲さき 精進料理の角正

【5】最貧国のはずが・・・？

遠くて貧しかった飛騨の高山になぜ小京都や割烹が・・・？

高山発展小史 律令から農地解放・観光客依存まで

【6】ホテルアソシア高山リゾート

ホテルアソシア高山リゾート概要 湯量・眺望抜群のホテルアソシア高山リゾートの温泉

【7】冬のアソシア高山

ホテルアソシア高山リゾートの「冬の季節便り」ライトアップ・スキーなど

【8】アソシア高山をリゾートライフ風を使う

ホテルアソシア高山リゾートに連泊滞在

【9】あとがきと付録

付・観光客とリゾート客

【1】変革経て人気の観光都市に

1 高山はヨーロッパ客に人気

外国から日本を訪れる客を Inbound、その逆 Outbound である。日本の Inbound は 621 万人(うち観光は 472 万人)、Outbound は 1699 万人。その比は 1:2.7。10 年前の 3.3 に比べればだいぶ改善されたが、先進国では異様に少ない。トップのフランスは 7950 万人、以下アメリカ、中国、スペインと続き、5 位のイタリアでも 4,611 万人で日本は 39 位。香港はもとより韓国よりも少なく台湾並みである。以上は 2011 年の数字である。



* 竹馬に興じるヨーロッパ客「飛騨の里」でのスナップ

2010 年は 861 万人だから 11 年は激減である。東日本震災や欧州不況の影響が大きかった。11 年 3 月のある日のパリ発東京行きは、理由は不明だが、乗降なしでソウルの仁川空港にいったん降り、それから成田に飛んだのだが、ともかくガラガラだった。01 年 9 月アメリカ同時多発テロ事件のあった頃のフランクフルトの空港も閑散としていた。観光はミズモノで何かあると減る。浮き沈みが激しい一面があるのは否めない。

その日本の Inbound だが、3/4 はアジア国籍、ヨーロッパ国籍は 9%にすぎない。ところが、高山の 2011 年外人宿泊客 9.5 万人に対しヨーロッパ客は 15%、前年の 10 年は 18.7 万人に対し 28%もあった。アジア客も訪れるけれども、高山はヨーロッパ客に人気がある。Inbound 優等生である。

東京に入って京都に寄って、テクニカルなら名古屋の自動車に寄って、関空から帰す定番ルートから見ると、「歴史的町並みを味わえる」とはいえ、高山人気はどこにあるのだろうか。

2 高山の町並みは 2 回のイノベーションを経た

高山の町並みを小京風に仕立てようとしたオリジナルは、多分、金森長近のアイデアであろう。

第一期は、金森が、豊臣秀吉から飛騨高山を拝領した 1586(天正 16)年から、6 代後の頼時がこの地を追われるまで 1692(元禄 5)年まで、この 180 年間は武家の街でもあった。

第二期は、幕府直轄となった 1815 年から、日本が「大東亜戦争」に負けて、農地解放が起きる 1947(昭和 22)

年までの 130 年間である。これは近郷の農地を支配し、時の権力の山林経営の参画した大地主兼「豪商」が、町人の街高山を支えた時代である。

第三期は、農地解放後今に至る時代で、いま 60 年くらいは続いている。栄華を誇った農地の大地主はいない。山林大地主筆頭の林野特別会計も「貧乏なる大地主」で、往年の徳川・皇室の御用林のように富を産まない。市民だけで維持できない分を、観光客に依存ということになるのか。

高山の古き町並みは、少なくとも、2 回の大きな変革(イノベーション)を乗り越えている。

【2】小京都風行事が並ぶ余裕の素は？

3 大正時代の高山「小京都」論

高山の魅力はこの稿でも少々レビューするが、町並み、料理、工芸品、神社仏閣、その催事などなどとなろう。高山は京都みたいで、一風変わった「まち」であるのは、いまにはじまったことではなさそうだ。

『高山市史』をめくると、大正 4 年 10 月、自動車で 30 里ほど乗って、斐太中学の校長として赴任したという川口孫治郎の「小京都」観が載っている。以下は京都と高山の対比である。

京の鴨川に対し宮川、御所に対し高山城。京では二条大橋から御池・三条・四条…と続く橋に、高山では中橋・筏橋・柳橋・鍛冶橋・弥生橋…と続く。

京の東山に対し高山では西山、

高山では松尾神社には松泰寺、以下云々と続き、

京の東山一帯の景観に対し、

高山の老根松からみたアルプスがあり、この景観は京に対し何ら遜色なく、

京は南向きに対し

高山は北向きなのだ。

かくのごとくで、ともかく小京都の高山に賛辞を惜しまない。



* 高山市内・上三之町

4 行事と食べ物

こうした小京都を背景に、年中、何らかの催事がある。やや昔のスケジュールをピックアップすると、1月の少なからぬ神社仏閣詣ではじまり、2月の節分会に雪すべりに炬燵酒、3月の涅槃会の団子、4月山王祭、5月飛騨総社例祭、6月秋葉祭、7月夜市、8月盂蘭盆会に盆踊り、9月八幡祭、10月年間農作業終了後の飲み会、11月イモ洗いに漬物準備、12月冬至の南瓜に、信州から出稼ぎ工女が帰郷し北の塩鯊を食して越年という具合である。

ことに2月などは、深雪で行事らしい行事もなく、ひっそりさみしく寂々寥々、降雪に任せて寂光土・浄土さながらといいながら、ささやかにせよ遊びや行事が用意され、そこに炬燵酒がある。折々に、食べ物の話題が出てくる。それが必ずしも飛騨牛ではないし、ただの駄菓子でもないの、興味をそそることになる。



* 高山祭屋台絵巻(部分)長倉三郎

【3】交通事情

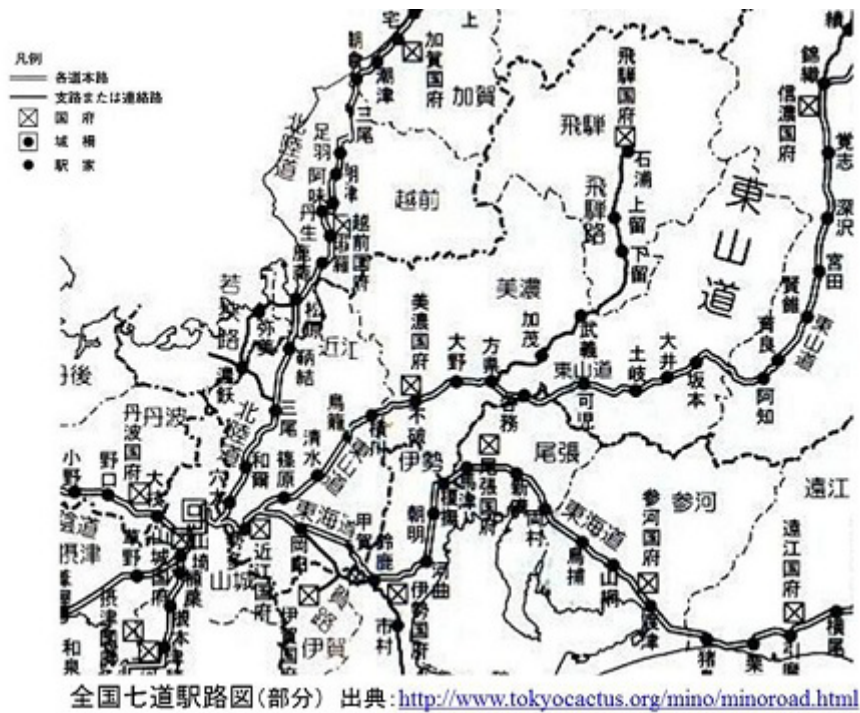
6 江戸・高山はざっと10-11日

それに飛騨は遠い。東山道の終点を陸奥の国府(仙台)とみるならば京都まで約800キロ(約25日間)。それに比べたら高山はずっと近いが、それでも京都までざっと240キロ(約8日間)、江戸までは、安房峠越えて310-330キロ(約10-11日間)、結構な遠距離である。

大和朝廷は各国の諸税(租庸調)を京までどうやって運ばせたのか、その納税制度もいささか気になるところだ。奈良の律令制では地方行政単位を五畿七道(ごきしちどう)と括ったが、併せて道路の名称とするなら、東山道は本州の山岳地帯の、いわば貧しい場所を拾って開通させた感じさえる。高山はその東山道の幹線から、いまの岐阜の北西 辺り(赤坂)で分岐し、さらに北上する高山支道の終点に位置する。

自らを「下々の下国」というのも言い得ている。しかしながら、この僻遠の地に、なぜ、京都ならぬ高山があるの

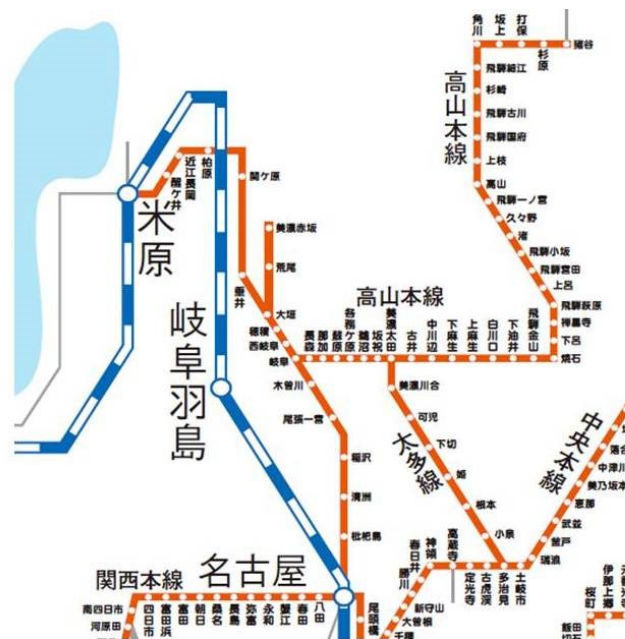
だろうか。



* 東山道高山支道

7 鉄道の開通は1934年10月

高山本線は岐阜からの高山線と富山からの飛越線からなる。高山線の岐阜側からの着工が1919年、岐阜と各務は20年11月に、飛越線の富山と八尾は27年9月にそれぞれ開通、この高山に鉄道が届いたのは1934年10月である。岐阜・富山全通に15年を要したことになる。いまから80年ほど前までは、かなりの努力なしに行ける場所ではなかった…ことになる。



高山本線路線図 出典: <http://railway.jr-central.co.jp/route-map/>

いまでも、夜、列車が鹿と「衝突」したりして遅れたりする牧歌的な山岳路線で、本州の本線では唯一の地方交通線である。割高な運賃表を適用されるが、岐阜近郊の一部の区間では名鉄(名古屋鉄道)との競合があり、名鉄の岐阜と新鵜沼と比べ、JRの岐阜と鵜沼間の運賃の方が若干安いという。鉄道経営もなかなか大変だ。

電化工事の起工式が80年5月に高山駅構内で挙行されるも、架線柱420本の建設をもって工事は止まり、その後計画自体が立ち消えるエピソードもある。電化の方式をめぐる論争に決着がつかなかったらしい。そこでいまもディーゼル(気動車)だが、さまざまに路線改良や設備投資が行われ、名古屋-高山間は「ワードビューひだ」で2時間30分程度で走るから、特段に支障はない。

観光路線となれば、早いばかりが取り柄ともいえず、今後もバス路線と競争しながら、独特の味を持った鉄道として生き残っていくであろうし、2014年度の北陸新幹線長野駅-金沢駅間の開業となれば、高山本線の位置づけも変わるかもしれない。

【4】雑にまれな料理

8 宗和流懐石料理の洲さき

いま、旅行代理店などが、高山の献立を紹介するとなると、飛騨牛と高山ラーメンに多くのページを割く。しかし、高山には、ことに幕府直轄地になって定着した懐石料理と精進料理がある。

高山には2軒の料亭がある。1794(寛政6)年創業の洲さき(すさき)と1815(文化12)年頃創業の角正(すみしょう)である。前掲『商工技芸飛騨之便覧』には、高山中橋東詰東へ入・料理商・洲岬和作と、高山上向町・旅人宿・角竹(すみたけ)市蔵として掲載されている。明治維新にもめげず商いを持続できたことを意味する。

ともに、立派なホームページ、

洲さき:<http://www.ryoutei-susaki.com/>、

角正:<http://www.kakusyo.com/index2.html>

があるので、実際の予約などは、ご参照いただくとして、ここでは少々昔に遡ってエピソードを探して紹介する。

洲さきのウリは茶道・宗和流の料理である。宗和流を編み出したのは初代高山藩主だった金森長近の分家の跡取りながら廃嫡となり、茶道に専念した金森宗和である。京の茶人や公家との交際のなかで精緻され、「姫宗和」というほどにエレガントな流儀という。高山での宗和料理はかつてこの地方の標準的な宴会料理であった。仕出し屋がないときは、自家で調理するか、料理人を呼ぶ。

たとえば婚礼だと、お嫁さんが朝9時に婚家に到着するとして、前日からはじまって徹夜で料理して、朝8時までに完了しなければならない。冬季の寒い日などは、調理人が作業しながら茶碗酒を飲みすぎて、万が一寝てしまうと、間に合わない恐れがあった。それでも、婚礼は先に日取りがわかるからよいが、不祝儀はあらかじめ予定できるものではないので、材料の調達に苦労したという。もうひとつになるのは八寸盆・皿や鉢などの什器である。自家で揃えておくとすれば、結構な負担になるはずだ。仕出し屋に依存するのも当然の流れである。

以上は明治の中頃の話だが、宴会は姫宗和のようなイメージではなく、かなりの酒量に堪える必要がありそうだ。その献立は別表のごとくである⇒[宗和流宴会料理の献立.pdf](#)。

この献立にも、洲さきのホームページの宗和本膳にもタイ(鯛)が出てくる。むろんいまの洲さきの献立は洗練されているから、比較の仕様もないのだが、高山から富山までは越中東街道でも80キロはある。その頃、そのタイをどういう味にしたたのか興味深い。



* 洲さきの店構え

9 精進料理の角正

一方、角正は趣を異にし、発祥は江戸である。角竹初代の角竹幸右エ門は、江戸で刀鍛冶をしていたが、あるとき、2代庄兵衛とともに、江戸・谷中の「八百善亭」で料理を学んだという。

そして、1815(文化 12)年に就任する 18 代の郡代・芝与市右衛門に供奉して、一緒に飛騨へ下った。そして鍛冶屋から料理屋に転職する。現店舗は、3代茂助が、郡代役所出入医、円山東巒(とうらん)の住居を買収したもので、金森家無き後、町人の街に変貌し高山では珍しい武家邸宅の様式を多分に残していて、高山市の文化財に指定されている。

歴代の郡代は味にうるさく、しかし何しろ山のなかで、魚はなく塩もわずかで、野菜・木の実・海藻を応なく工夫せざるを得ない。武家は禅宗好みだし、精進料理に向うのが当を得ていたようだ。

なお、12代子孫の功次が東京・昭島で、10年7月に「すみたけ歯科」を開業し、そのホームページに角正の由来を紹介している(<http://sumitake.net/concept.html>)。

さて、この料亭を1941(昭和16)年に、北陸旅行の帰りに高山線に乗ったついでに角正を訪れたという作家・獅子文六(後・文化勲章受章)が、印象記を残し、中国に起源をもつ黄檗(おうぼく)流とことなる角正独自の精進料理を高く評価している。

その一節を紹介すると、「私は四十を越してから、精進料理が好きになり…」、「クルマ豆腐は、うまかった。揚物は、蔓つきの竹籠に盛り、恐ろしく上品な精進場を現出したが、私は走り物でなくてもいいから、もつと落ちついた味が欲しかった」とか、「箸洗のお椀に、始めて麩が出た…麩といふものは、私の好物だから、湯葉とでも煮て貰って、沢山食べたかった」「万事、私の趣味は下品で、惣菜向きらしい」という調子である。

獅子文六は1893(明治26)年生まれで、横浜・東京育ち、後に演劇研究で渡仏、初婚は仏夫人であった。角正が起源とする江戸の「八百善」の味がたまたま高山に残っていて、それが40歳を超えた文六の味覚を堪能させたのであろう。例の『飛騨春秋』に献立があるので、以下に紹介する。

献立

吸物

菊葉揚 じゆんさい花柚子

前菜

そば紫蘇包 五月豆わさび漬

小附

黒豆

深鉢

飛龍頭 新ぜんまい 椎茸

八寸

胡麻おかべ 琥珀くるみ 土佐煮百合 茄子しぎ焼 きやら落

口代り

クルミ味噌 柚子味噌

揚物

新挽揚 生椎茸 青たうがらし 南瓜 かき百合 紫蘇

止鉢

ウドのクルミ酢和へ

箸洗

忍生姜 松葉 角麩 梅 晒ねぎ

御汁

新わらび 茗荷

御飯

香の物 水の物 甘味

出典：獅子文六「角正の精進料理」『飛驒春秋』30-31 頁、昭和〇年〇月号。

(刊行年月は失念 乞・ご寛恕)

【5】最貧国のはずが…？

10 遠くて貧しかった飛騨の高山になぜ小京都や割烹が…？

飛騨が遠くて貧しかったのは、既に触れたように、租庸調の大宝律令のころから言われてきた。したがて、町並みが小京都になったり、懐石にせよ精進にせよ、高級料理が何世紀も続くような余裕は、この地域にあらうはずがないのだが、現実には、街並みも高級料理も続いてきた。

その余裕の根源はどこにあったのだろうか。

街にだってライフサイクルがある。上昇期・飽和期・下降期がある。余裕がなければ、本来なら消滅しても不思議はないのだが、高山の街は、金森の都市開発以来 430 年間を経過し、いまだにしっかり存続している。

珍しい例というべきではなかろうか。

11: 高山発展小史…律令から農地解放・観光客依存まで

高山の余裕…、その理由を探索してみようとおもい、数回、煥章館(高山市立図書館)に通ってみた。

すでにご紹介申し上げたところではあるが、ささやかなレポートを作成したので、ご関心の向きにはご笑覧いただきたい。このホームページの筆者は、文字通りの「にわか」勉強なので、プロの郷土史家から見たら穴だらけである。ご叱正あれば幸甚の至りである。

- 1 律令時代に徴用された飛騨の匠 「小京都」好みの金森長近
- 2 越前大野と飛騨高山 農耕はダメだけれど、「山色よろしく」
- 3 飛騨の江戸幕府の直轄領化 高山は町人の街に変貌
- 4 第 12 代代官大原彦二郎の「大原騒動」・第 13 代の大原亀五郎の苛斂誅求
- 5 幕府の補助金行政 「豪商」たちの商い
- 6 旦那衆の勃興とは田畑貯蓄？
- 7 旦那衆に代わって登場した観光客・高山市の観光統計から(未完)

これもすでに触れたことが、「都市計画家」の金森長近が越前大野に引き続き計画した第2作目の高山が、ひとつは江戸幕府直轄地となって武家の街から商人の街に変貌せざるを得なかったこと、もうひとつは、終戦後の農地解放で没落した大農家にかわるスポンサーを見つけざるを得なかったこと、この2つの課題をクリアしたからこそ、持続していまの高山につながったのだ…と言いたい。

つまりは、高山も試練に耐えて、今の街があるという、たとえば、ビジネススクールの演習するなら、事業や家産を後の代まで持続させるヒントが、この事例に潜んでいのだと、それを掘り出していきたいということである。

【6】ホテルアソシア高山リゾート

11ホテルアソシア高山リゾート

アソシアホテルズ&リゾートは、東海道新幹線を主力商品(鉄道部門収益の約 85%)とする JR 東海(東海旅客鉄道)系列のホテルチェーンで、(株) ジェイアール東海ホテルズ(JRTokaiHotelsCo.,Ltd.・本社名古屋市中村区)

が経営する。ホームページは <http://www.associa.co.jp/>。

名古屋マリオット、高山、豊橋、静岡、新横浜でアソシアブランドのホテルを運営する。事業の多様化は、国鉄民営化の当初からの課題であり、ホテル部門も重要な関連事業のひとつであった。

このホテルアソシア高山リゾートは、2000(平成12)年5月に開業の旗艦ホテル「名古屋マリオット」に対して、パイロット事業的な位置づけをもち、アソシアブランドのホテルの第一号店として、1994(平成6)年7月に開業した。スタンダードツインで35㎡、デラックスツイン46㎡というように客室は広く、かつ290室を擁する大型のリゾートホテルである。<http://www.associa.com/ky/index.html>



* ホテルアソシア高山リゾート客室



* 日没のアソシア高山 高山の夜景でひととき目立つ。

当初、中部日本放送(CBC)や地元の飛騨庭石(飛騨高山茶の湯の森や飛騨高山まつりの森を経営)との共同事業であったが、いまは JR 東海の単独経営となり、2002(平成 14)年 1 月 1 日「アソシアリゾートクラブ」を設立して、ホテルアソシア高山リゾートの運営を直営化した。現在、リゾートクラブは法人 会員のみを募集している。

所在地は高山市越後町 1134。高山駅から西南に道程で 2.5 キロの高台(高山駅より 80m ほど高い)で、高山の中心部(古い町並み)から少々離れるが、日に 15 本程度、駅とホテルの往復連絡バスが走る。この立地は絶妙の説得力がある。2 回のイノベーションを経た古い町並みの外側にあるため、おそらくは何百年のしきたりやしがらみにあまり縛られず、自由に企画できたであろうと推察する。

12: 湯量・眺望抜群のホテルアソシア高山リゾートの温泉

ホテルの建物は微妙に北東から南東を向いている。乗鞍・御岳はもとより、穂高・槍ヶ岳あたりから木曾駒ヶ岳あたりまで、屋上の露天風呂はもとより、客室からも一望できる。そのために大きな窓を設けてある。

日本アルプスは、英人鉱山技師 W.ゴーランドが、1871(明治 4)年に、ヨーロッパアルプス因み命名したと聞かすが、そのうち、飛騨山脈(北アルプス)と 木曾山脈(中央アルプス)の大半の名峰を、しかも東側にあるため、日の出はもとより、夕日を背にし、日没ともに変わる山の色あいを楽しめる。

数ある高山の伝統旅館に比べれば、アソシア高山は新参ではあるのだが、ここの温泉は高山で掘削された第一号で、このホテル客のためのホンモノの源泉である。しかも硫黄で白濁した乗鞍と異なり、さらさらした弱アルカリ性単純泉である。このアソシア以降、高山市内の伝統旅館などで、温泉を掘削する例が出てきた。

そして、04(平成 6)年 11 月に温泉棟を増築、湯量豊富な源泉を活用し、7F に天の湯、6F に遊食楽、5F に望の湯を配置し、日帰り温泉客など、よりカジュアルな利用を促進している。

こからの日本アルプスの眺望は、天候さえ味方すれば、掛け値なしの「新鮮な空気・壮大な風景」である。文字通りの「展望大浴場」で、ことに、冬季の晴れた日の夕方の、7F 露天風呂「天の湯」のもっとも南寄りの一段高い湯船こそお勧めである。

この湯船は「壁湯」と称し、一見すると、湯船の端が天に繋がって見える。秀逸かつ傑作と言わざるを得ない。



* 見事な「壁湯」天の湯が溢れ下界に流出！

(注)写真は視界右側の乗鞍岳の豊平・剣ヶ峰・大日岳。左側視界には穂高・槍がみえるはずである。

【7】冬のアソシア高山

13ホテルアソシア高山リゾートの「冬の季節便り」ライトアップなど

ホテルアソシア高山リゾートの「冬の季節便り」では、「ホテルアソシア高山リゾートで楽しむ冬の旅・知恵と神秘的な雪化粧に魅了される冬の飛騨」として、ライトアップイベントの世界遺産登録・合掌造り白川郷(岐阜県大野郡白川村荻町・ホテルから約 50km・1 時間)、飛騨民俗村・飛騨の里(同 3 km、10 分)、高山市内の造り酒屋の「酒蔵めぐり」と新酒の利き酒、そして冷えた体を北アルプスの大パノラマを眺めながら「天望の湯」でゆっくりと温まる至福の時間を提案している。

世界遺産登録・合掌造り白川郷(<http://www.shirakawa-go.gr.jp/>) ライトアップ期間 13 年 01 月中旬-13 年 02 月。ただしライトアップの時間が 1 時間程度と短い。

飛騨民俗村・飛騨の里(<http://www.hidanosato-tpo.jp/top.html>) ライトアップ期間 12 年 12 月 22 日から 12 月 25 日および 13 年 1 月 12 日から 2 月 28 日。



* 飛騨の里のなかの藁葺屋根(部分)



* 飛騨の里

酒蔵めぐり(<http://www.hida.jp/fuyunotabi/sakagurameguri.htm>)。川尻酒造場 0577-32-0143・1月17日(木)~1月23日(水)「ひだ正宗」、二木酒造 0577-32-0021・1月24日(木)~1月30日(水)「玉の井」、平瀬酒造店 0577-34-0010・1月31日(木)~2月6日(水)「久寿玉」、船坂酒造店 0577-32-0016・2月7日(木)~2月13日(水)「深山菊」、平田酒造場 0577-32-0352・2月14日(木)~2月20日(水)「山の光」、原田酒造場 0577-32-0120・2月21日(木)~2月27日(水)「山車」が参加する。

12年12月1日から13年2月28日まで、市内を流れる宮川の中橋で、規模はいささか小さいが提灯を飾る行事 <http://www.hida.jp/lightup/shigaichi-area-winter.html> がある。

また、1月1日から3月31日の氷点下の森ライトアップ <http://hyotenkanomori.com/index2.htm>・市内朝日町秋神温泉(34km、約1時間)、

13年1月15日の三寺(さんてら)まいり <http://www.hida-kankou.jp/event/1286/>・飛騨市古川町(19 km、30分)、

13年1月12日から2月中旬の飛騨高山氷の彫刻まつり(URL不詳)が高山陣屋前広場の古い街並である。

13年2月15日から2月25日の平湯大滝結氷まつり <http://hirayuonsen.or.jp/event01.htm>・平湯温泉(38 km、1時間)をリストアップしている。

スキー場は以下の3か所が紹介されていた。

14ホテルアソシア高山リゾートの「冬の季節便り」スキー

朴(ほう)の木平スキー場 <http://www.hounoki-daira.or.jp/>・市内丹生川町・12月中旬から3月下旬で8時~17時(31 km・50分)、標高1550mに位置し標高差350m、全長2000mのスキー場。

モンデウス飛騨位山スノーパーク <http://www.hida-montdeus.com/>・市内一之宮町・12月下旬~3月中旬で8時~16時30分(13 km・25分)、ホテルから最も近いモンデウスは小ぶりでスノーチューブが用意されタイや遊びができる。標高1200mに位置し、標高差300m、全長1700mのスキー場。

チャオ御岳スノーリゾート <http://www.ciao.co.jp/>・市内高根町日和田・12月上旬~5月下旬・8時30分~16時(57 km・1時間40分)である。標高2190mの標高差380m、全長2250mのスキー場。JR東海や高山市などが出資する第三セクターの飛騨森林都市企画(株)の経営である。

余事ながら、東海北陸自動車道(あるいはJR高山本線)沿線のスキー場は、高山より手前のめいほう(全長5000m・郡上市明宝奥住水沢上・郡上八幡 IC から28 km)や高鷲スノーパーク(郡上市高鷲町西洞・全長4800m・高鷲 IC から13km)がある。ただ、スキーリフト(索道輸送)のシェアは長野が全国の30%近くあり、中央道側には御岳東側のおんたけ2240(全長7000m・長野県王滝村・中津川または伊那 IC から89 km)やMt 乗鞍(全長5000m・松本市安曇乗鞍高原・松本 IC から40km)、あるいはさらに奥の方に八ヶ岳・菅平、さらには白馬や志賀高原などがあるが、中部圏からは絶対距離が遠いのに加え、最寄 IC から遠い。その点で、御岳西側のチャオが、高山まで来てしまうと、アソシア高山から57 km、そして標高2000m超に立地するというのは、天望の湯からの乗鞍岳の眺望とあわせて興味深い。

(注)本節の()内に記した距離と時間はホテルから当該地までにつき google 地図で測定した数字。季節は加味していない。また、スキー場の標高等のデータは楽天および Wiki による。いずれも12年11月取材段階のデータである。



* A 点(ホテルアソシア高山)から西側の山岳

【8】アソシア高山をリゾートライフ風を使う 15ホテルアソシア高山リゾートに連泊滞在

リゾートの直訳はたとえば保養地・避暑地だが、①長期に滞在する(1週間から1か月程度)、②たびたび訪れる(re-sortir・・・再び出る?)、少なくともこの2つの意味がある。

宿泊プランのなかに「10階以上の高層階確約・シングルステイ1泊朝食付プラン」がある。無線LAN導入(接続無料)により、ビジネスでご利用のお客様にも快適にお過ごしいただけるように・・・なったとのこと、「シングルユース用の特別プラン」で、「1名様1室/お一人様料金¥10,500〜<1泊朝食付き>」という。これは考えようによっては、とてもとてもお値打ちではなかろうかと・・・。

ハワイのワイキキとかサンジェゴの住宅地の近くのタイムシェアに、あるいはコロラドのベール、その一格上のビーバークリーク、このクラスになると元大統領の別荘があったのだが・・・。

(<http://www.beavercreek.com/>)、

そこに1週間連泊を想定しながら、このアソシア高山に1週間、6泊7日でも7泊8日でもよい、冬季のなるべく閑散期を選んで滞在したらどうということになるか。

筆者はこれがリゾートの原点であると考え。目的はたとえば思想書(マンガではない)の読書、思想書にはJ.ソロスの翻訳本があっても良い、原稿書き、来シーズンの利益計画、M&Aの作戦、役員の人事考課、政敵の打倒プラン、CVSからの撤退、いまの建て玉の整理、否、攻めの計画・・・。滞在費はせいぜい10万円。これを超える思索をすれば十分元は取れる。

飽いたら酒造めぐりでも合掌造りでも、古い町並みの戦略的背景を探りに煥章館なる高山市立図書館にいくとか。この図書館の2階に開架する『飛騨春秋』には、高山商人の栄枯盛衰が間接的に書かれている。

むろん、たとえば木曜日に、友人とか重要な部下のカップル数組(十数組だとめだちそう)を招待して、内輪のパーティをしても良いかもしれない。



* 煥章館 高山市立図書館

この提案にはネットは重要なのだ。携電などはともかく、持ち込んだ PC が、いつもと同じように安定的に使えなければならない。そして食事の選択の自由。これはきわめて大切だ。

飛騨牛は牛の種類でこれは少なくとも系図できる。生まれた場所をうさく言う向きもあるが、肝心なのは系図であり、それで飛騨牛なのか、前沢牛なのかを決める。A5 というのはほぼ体重。たぶん優良なる 1 トンの牛である。

マグロで言ったら R(ラウンド)で 80 kg の船凍バチは 12 万円であっても、収穫地域が同じとして 120 kg のバチは 18 万円では買えないのと同じだ。牛肉もマグロでも脂分交差率 (marbling) の高さで価格が決まる。

飛騨牛料理の手法や価格の高さが問題なのではない。交差率が高くなるとカロリーも飛躍的に高くなることにある。7 泊 7 回の毎回の夕食に交差率の高い肉は食せない。カネの問題ではなく健康の問題である。

自家の料理人を随行させようとさせまいと、世界のトップリゾートには、必ず食事の選択の自由がある。アソシア高山は、メインダイニングルームの他に、温泉館の 6F の「遊食楽」ができたお蔭で、この問題が大幅に解決した。



* メインダイニング



* 小さなプライベート会合向きのパブリックスペース



* 温泉棟 6 階のカジュアルなレストラン

もちこんだ PC が思うように使えて、食事の選択ができる、ベッドと仕事が可能なお机とスタンドが付いた、観光地の宿泊施設は、実に稀なのである。あとは、自分の堅固な意思で卓上のテレビを、滞在期間中撤去してもらうだけだ。それで高級リゾート施設の基本条件がそろったのである。

また、ホテルアソシヤ高山リゾートは「香り」の提案に注力している。温泉棟 6F(スパフィットンパークウイング 6F)のスパフィットンは、かなり立派な設備に常用雇用の施術者を揃え、「包み込むような手」「ほっとするオイルの香り」「高山の森からのエネルギー」のリラクゼーションを提供している。森林と水をテーマとしたところが非常に面白い。スパフィットンのオリジナル商品の「癒しの香り」は、バスルームあるいは居室で「ひのきの香り」を楽しむ。ちなみに、森林浴には必須の木の香りのもとが化学物質のフィトンチッド(phytoncide)であり、フィトンチッドはそれに由来する。

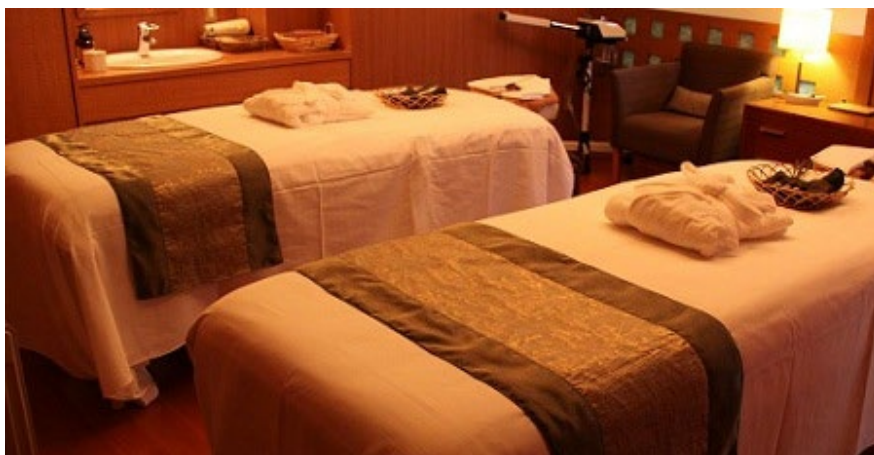
案内のホームページはつぎのとおりである。http://www.associa.com/tky/phyton/spa_phyton.html

第 23 期竜王戦七番勝負第 6 局が、2010 年 12 月 15 日(水)、当・ホテルアソシヤ高山リゾートで行われた。竜王戦は名人戦に並ぶ 2 大タイトルという。第 23 期竜王戦は 22 期竜王の渡辺明が名人羽生善治を 4 勝 2 敗で防衛、このアソシヤ高山で行われた対局で 7 連覇を達成し幕を閉じた。その 23 期会場第 6 局の会場になったの

が、以下の和室である。

ご関心の向きは <http://kifulog.shogi.or.jp/ryuou/236/> 参照いただきたい。ちなみに、24 期も 25 期も渡辺が制し、9 連覇を達成している。詳しくは <http://live.shogi.or.jp/ryuou/index.html> 。

また、渡辺のブログは、<http://blog.goo.ne.jp/kishi-akira/> である。



* スパフィットンのトリートメント室



* スパフィットンオリジナルの癒しの香り群



* この和室で竜王戦対局が行われた

【9】あとがきと付録

16 あとがき

高山は書く材料に事欠かない。その代り調べるのも大変だ。資料がないなどという言い訳は通じない。煥章館の2階はいささか贅沢で環境が整いすぎている。

せつかくこのホームページに訪問して頂いた方にはまことに申し訳ないが、ここに記したことは、煥章館でのまことにささやまなにわか勉強にすぎない。ケーススタディ的には、飛驒の山師(鉱山事業家)や年貢や塩のこと、一部の商人に付与された特権こと・いまの実務のヒントになるような、面白そうな話題があるが、などは割愛した。

郷土史も煥章館の蔵書の水準になると、世界に通ずる立派なビジネススクールでもある。高山にはそれを記述した好事家が居られたことになる。それが商人なら、相場の罫線解読の奥義「酒田五法」の本間宗久とはいわないまでも、大坂升屋の山片蟠桃(やまがたばんとう)と同類に分類されるかもしれない。山片は(1748-1821年は傾いた両替商升屋を再興した大番頭で、いまでいえば兼・経営学者。主著に『夢の代』。懐徳堂(現・阪大)で朱子学、先事館で天文学を修めたという。

ホテルアソシア高山リゾートでのリゾートライフを試みる方には、スケジュールのなかに煥章館を組み込んでいただきたい。

付:観光客とリゾート客

ある地域が「観光」で成り立つようにするには、いくつか条件がある。町並みは商品ではあるから、今風にアレンジして維持する必要がある。今風といっても、たとえばCVSや大型店や大駐車場のない街にするには我慢も必要になる。規制が必須になる。

観光は装置事業でもある。お客を宿泊ないし滞在させる施設が「商品」に組み込まれている必要がある。ここは固定資産との戦い、つまりは減価償却費と元・利金の支払いを可能にする売上が必要になる。ただし、いったん投資したら容易には撤収できないという覚悟がいる。

商品を買うお客がなければならない。この場合のお客はカネ(自由に使える流動資産)だけではなく、ヒマ(自由に使える時間)を併せ持つ自然人(法人ではない)が不可欠だ。カネを使ってヒマを過ごす。これは「遊び」に他ならない。遊びは主体の裁量に大きく依存する。お客は「我がまま」をもって旨とするが、それをすべて容認したら商品にはならない。

そして、商品の存在をお客に告知し施設の利用を予約する媒体が必要になるとともに、実際にその自然人の「体」を商品が所在する場所まで運ぶ輸送が不可欠になる。媒体と輸送、これはインフラである。

観光には商品(自然や規制等+人工的構築物)、顧客つまりΣ(ヒマ+カネ)、インフラ(媒体+輸送)、この6要素3要因が不可欠で、それは観光客になるか、リゾート客になるかは「遊び」の構成の仕方、つまりは、繰り返し・繰り返し訪れる、または1週間くらい滞在するならリゾート客となる。さらに長期なれば定住に近づくと、短ければツアー客(しばし観光客と訳される)になる。この考えは大谷による。

出典:大谷毅『リゾートビジネスの構図…岐路に立つ企画現場』第一法規、1991年(絶版)、94頁他。

高山に観光が成立つのは、高山にこの6要素3要因が、なんらかの程度に、同時に充足されていることを意味する。もっと多くの観光客が欲しいとなれば、この6要素3要因から戦略事項を発見して、それを充足する必要があるが、これについては、また別の機会に譲る。